

短時間頻回低透析液流量透析の尿素除去特性から見た臨床評価

東京女子医科大学臨床工学部 1)、同血液浄化療法科 2)、臨床工学科 3)、旭化成クラレメディカル株式会社 4)
内田 浩文 1)、伊藤 憲 1)、石森 勇 1)、村上 淳 1)、金子岩和 1)、木全直樹 2)、峰島三千男 3)、水野 努
4)、秋葉 隆 2) >

目的

現在、血液透析は週 3 回・4 時間が主流である。この 1 回あたりの時間を短縮する透析治療方法として短時間頻回透析が知られている。本研究では短時間頻回低透析液流量透析 (Shorttime, high frequency, low dialysate flowdialysis,SHLD) の尿素除去に関する有効性の検証を目的とした。

対象及び方法

対象症例は 2 名で症例 1 は原疾患糖尿病性腎症、透析歴 2.1 年の女性であり、症例 2 は原疾患慢性糸球体腎炎、透析歴 18.0 年の男性である。12 週間の SHLD とその前一週間、後二週間の通常透析(Standard dialysis,SD)を行い比較検討した。SHLD は、週 5 回、2.4 時間、QD=300ml/min、SD は週 3 回、4 時間、QD=500ml/min とした。

結果及び考察

症例 1 の SD 施行時の TAC-BUN は 34.9 ± 1.9 mg/dl、SHLD 施行時は 33.5 ± 4.6 mg/dl、症例 2 の SD 施行時の TAC-BUN は 36.6 ± 4.9 mg/dl、SHLD 施行時は 37.7 ± 2.7 mg/dl であった。両症例とも、SHLD、SD 間に TAC-BUN に大きな差は見られなかった。